

ON!

Old but New

伝統を残しながら、変わり続ける街
大手町・丸の内・有楽町の
街づくりを発信する情報誌

大丸有建築ツアーガイド

大手町・丸の内・有楽町は、
歴史ある建物と最新のビルとが
共存し調和した街づくりがなされている。
建築物をテーマに、この街を歩いてみた。

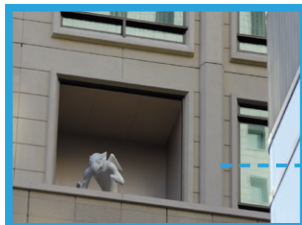
2008 SPRING

013

有楽町～ 丸の内3丁目



東京交通会館を起点に、昨年10月にオープンしたイトシアの地下1階を経由し丸の内通りへ。建ち並ぶザ・ペニンシュラ東京、DNタワー21、国際ビルを見たら、東京国際フォーラムへと向かいます。DNタワー21は日比谷濠から、東京国際フォーラムは馬場先通り側からのアングルも必見です。



ザ・ペニンシュラ東京
(有楽町1-8-1)
前身である日比谷パークビル9階屋上の北東角に設置されていたガーゴイル。顔は鳥、体は人、背中に翼を持つ印象的なこの姿は、悪霊を追い払う魔除けの役割を果たすとされ、新築されたザ・ペニンシュラ東京の北東角、昔の高さ近くに再び設置された。



有楽町イトシア(有楽町2-7-1)
ここは「南町奉行所」の跡地で「大岡越前守様御屋敷」と書かれた木札をはじめ、ゆかりの貴重な品々が出土した。屋敷を囲っていた石垣は、有楽町地下駅前広場で休憩用のおしゃれなイスに変身し歴史を新たな形で伝えている。



国際ビル(丸の内3-1-1)
帝劇と一体型複合ビルになっている。内壁の大理石の模様の目がびったりあっているのも特徴。エレベーターホールは3cm角のタイルが埋め込まれ微妙なグラデーションをつくっており、オフィスビルのなかで秀逸といわれている。



DNタワー21
(有楽町1-13-1/第一生命館・農林中金ビル)
一区画の2つの建物を一体化して再構築するという保存方法がとられている。前面が旧第一生命館の北側外壁を保存、このビルは戦後GHQ本部があったことで有名だ。反対側の農林中金ビルは外壁にイオニア式の柱頭と柱脚を復元している。



東京国際フォーラム
(丸の内3-5-1)
土佐藩山内家の屋敷跡で、以前は東京都庁舎が建てていた場所。日本で初めて行われた国際建築家連合公認の国際公開設計コンペにより応募数395点の中から選ばれたラファエル・ヴィニオリ氏により設計された。



東京交通会館
(有楽町2-10-1)
2002年、同ビル3階にこの街で初めての屋上庭園「有楽町コリヤ」ができた。同ビルは首都高速八重洲線からの引き込みを計画していたともいわれ、その鞏固な造りが屋上庭園にも耐えうる構造となっているという話もある。

© TOKYO INTERNATIONAL FORUM CO., LTD.

JR 東京駅

グラントウキョウ
サウスタワー

グラントウキョウ
ノースタワー

サビアタワー

0 100m 200m



丸の内2丁目～丸の内1丁目

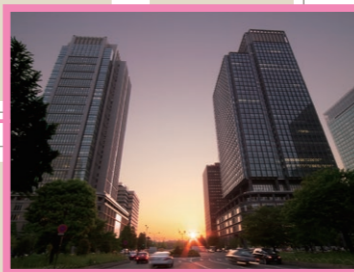


建設中の三菱一号館を横に見て、重要文化財の明治生命館へ。岸本ビルと丸の内三井ビルは、馬場先濠から見ると写真と同じアングルに。その後、数年後には建て替えられる予定の東京中央郵便局を經由し東京駅へ。ここから、行幸通りを見ると丸ビル・新丸ビルのスカイラインがはっきりわかります。

岸本ビル(丸の内2-2-1) & 丸の内三井ビル(丸の内2-2-2)
1980年～81年にかけて竣工した岸本ビルと丸の内三井ビル。2つの建物なのに、日比谷通り側から見るとまるでひとつのビルのように見える。デザインを統一してつくったためだ。近づいて見ると、2つのビルの間になぜか空間があるのがわかる。



丸ビル(丸の内2-4-1) & 新丸ビル(丸の内1-5-1)
戦前の美観地区指定やかつての建築基準法の高さ制限により丸の内界隈は百尺(約31m)の高さにそろったビルが立ち並んだ。東京駅側から見ると、丸ビルと新丸ビルも、この歴史的な31mのスカイラインを低層部のラインとして継承していることがわかる。



東京駅
「東京駅が街になる」をコンセプトにサビアタワー、グラントウキョウサウスタワー／ノースタワー1期が完成している。あとは、赤レンガ駅舎の創建当初の姿への復原(2011年度)と、グラントウキョウ2期(2013年春)の完成を待たばかりだ。



グラントウキョウノースタワー

東京中央郵便局(丸の内2-7-2)
1931年竣工。設計は通信省の吉田鉄郎で、あのB・タウトも絶賛したという近代初期モダニズム建築。柱梁を見せる和風建築として伝統的な真壁構造を意識したデザインで、シンプルなかにも威厳が感じられる。



三菱一号館(丸の内2-6-1)
1894年に完成した三菱一号館が春、美術館として復活。約230万個のレンガは、組積造で構造体としても機能するという当時の工法そのままに積み上げられる。保存されてきた窓枠や手すりなども、修復して利用し、可能な限り忠実に復元される。



明治生命館(丸の内2-1-1)
1934年竣工。設計は岡田信一郎で、古典主義様式の最高傑作として高く評価されている。昭和建築で初めて国の重要文化財に指定され、1階店頭営業室をはじめ2階会議室・応接室・食堂などの諸室が一般公開されている。



0 100m 200m

丸の内1丁目～ 大手町



東京駅から丸の内1stを歩き、日本工業倶楽部会館、東京銀行協会ビルといった歴史的建造物をウォッチングしたら、日比谷通りから永代通りへ入りみずほコーポレート銀行本店へ。その後、大手町ビル、アーバンネット大手町ビルを経由して、ガードをくぐって最終地点の日本ビルへと向かいます。



大手町ビル(大手町1-6-1)
1958年竣工で、当時は東洋一のビルと話題を呼んだ。長さ約203mはいまでも日本で最長のビル。竣工当時、その大きさは「後楽園球場2つ分」と表現され、「1階の廊下の端に立つと向こう側が地平線のように丸く見える」ともいわれた。



日本ビル(大手町2-6-2)
オリンピック開催2年前の1962年竣工。この地下駐車場は首都高速八重洲線(北行)と直結していて、高速道路からビルに直接出入りすることができるというユニークな設計。パーキングは24時間営業で、820台収容できる。



**東京銀行協会ビル
(丸の内1-3-1)**
日本工業倶楽部会館同様、松井貴太郎が設計したルネッサンスの赤煉瓦建築として有名だった東京銀行協会ビル。この外壁2面を残し、1993年に近代的なオフィスビルとして生まれ変わったのが東京銀行協会ビルだ。

**日本工業倶楽部会館
(丸の内1-4-6)**
1920年竣工。日本に数少ないゼクション様式を取り入れた正面玄関が特徴。建替えにあたっては、屋上の坑夫と織女の像、正面玄関の石柱、石材等はオリジナルの材料を使用し、大会堂、大食堂部分はほぼ完全に保存されている。

**アーバンネット
大手町ビル
(大手町2-2-2)**
情報通信設備が完備されたハイテクビルで、1990年竣工。フロア面積3,250㎡の無柱空間があるのが大きな特徴。ビル中央は半月形の吹き抜けアトリウム。その迫力は満点で、一見の価値がある。このビルもBCS賞を受賞している。



**みずほコーポレート銀行本店
(丸の内1-3-3)**
村野藤吾の代表作のひとつで、1974年に竣工。永代通りに向け鋭いエッジを見せる窓が無い部分が独特の緊張感を生み出している。その下のオープンスペースも特徴。国内の優秀な建築作品を表彰するBCS賞を受賞している。



0 100m 200m

グラントウキョウ
サウスタワー

ハイブリッドな街、大丸有

丸の内ウォークガイド ツアーリーダー 柗 昌夫

この街の魅力は、歴史的なバックグラウンドがある建築物がたくさんあり、しかも、それらが近代史に直結していることです。たとえば、日本工業倶楽部会館は、戦前から財界人のサロンとして機能し財界活動の拠点となっていました。ここは、戦後も発足当時の経団連の事務所がおかれ、まさに日本財界を象徴する場所といえます。そして東京駅も、その誕生により日本の東西の物流が一本化しました。

また、日比谷通り沿いにある旧第一生命館は、マッカーサーがGHQ本部を置いたことで有名で、いまでもその部屋は保存されています(非公開)。昭和の建造物として初めて国の重要文化財に指定された明治生命館も、1956年までGHQに接収されていました。

こうした建物が上手に保存され、一方でその建物を支えるように近代的な高層ビルが建てられ、見事に一体化しているのも大丸有の大きな特徴です。まさに、過去と現在が交錯するハイブリッドな街といえるのではないのでしょうか。

この街には明治時代には百尺(約31m)という高さ制限がありました。現在はその高さを表情線として、丸ビルや新丸ビルは百尺のところに段を設けるなど、昔の街並みをさりげない形で残しています。そんなところにも目をやりながら、この街の建築物を見て歩くのも興味深いものです。

一度歩いてみませんか? 丸の内

NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会では、ツアーリーダーが案内する丸の内ウォークガイドを実施している。「浪漫薫る街の散策」(火曜日実施)、「歴史色づく街の探訪」(木曜日実施)、「アート溢れる街のお散歩」(金曜日実施)とコースは3つ。いずれも、丸の内を再発見できるはずだ。なお、6月22日(日)には同協会主催で「丸の内検定」が行われる。詳しくは、TEL.03-3287-5386かwww.ligare.jpへ。



ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭2008開催

丸の内エリアでのゴールデンウイークの風物詩となったクラシック音楽の祭典。メイン会場の東京国際フォーラムを中心に「シュベルトとウイーン」をテーマにさまざまな公演が開催される。東京国際フォーラムは5月2日(金)～6日(火)、丸の内周辺エリアは4月29日(火)～5月6日(火)の予定。



写真は昨年のものです(©久保靖夫)▶



朝EXPO in Marunouchi 2008 spring 開催

大丸有地区の新しい「朝」のすごし方を提案する環境イベントとして春と秋に行われている朝EXPO。次回は4月21日(月)～25日(金)に、ワークショップやトークライブなど、からだやこころ、そしてビジネスシーンで役立つさまざまな講座を実施。皇居の周囲を巡るスカイバスでは落語や川柳講座などを春の空の下で愉しめるコンテンツや、新社会人に丸の内ワーカーとしての働き方を提案する講座も実施予定。開催時間はAM7:15～AM9:00で会場により実施時間が異なる。



発行:大手町・丸の内・有楽町地区
再開発計画推進協議会
〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1
大手町ビル635区
TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367
http://www.lares.dtine.jp/~tcc/

*本誌に関するご意見、ご感想等ございましたら
右記までお寄せください。e-mail:tcc@lares.dti.ne.jp

まち歩き携帯ナビ

「東京丸の内ユビキタス
ミュージアム」へようこそ

